



2016年5月18日

2016年3月期

決算説明会資料

株式会社アイネット

[東証1部:9600]



1. はじめに(会社概要)

2. 2016年3月期業績概要

3. 当社Grpの事業方針・強み

4. 業界環境・当社Grpの概況

5. 中期計画・通期業績予想

次第	プレゼンター	所要時間
はじめに	取締役 本社統括 内田 直克	約15分
2016年3月期 業績概要		
当社グループの 事業方針・強み	代表取締役社長 梶本 繁昌	約20分
業界環境 当社グループの概況		
中期計画 通期業績予想		
質疑応答		

inet 会社概要(2016年4月1日現在)

- 商号 株式会社アイネット
- 設立 1971年4月22日
- 本社 横浜市西区みなとみらい3-3-1
- 資本金 3,203百万円
- 代表者
代表取締役社長 梶本 繁昌



- 子会社
株式会社ISTソフトウェア
株式会社アイネット・データサービス

- 社員数 1,354名(連結)
903名(単独)
- 事業所／支店／データセンター
東京事業所 札幌支店、仙台支店、中部支店
大阪支店、中四国支店、福岡支店
第1データセンター、第2データセンター





1. はじめに(会社概要)

2. 2016年3月期業績概要

3. 当社Grpの事業方針・強み

4. 業界環境・当社Grpの概況

5. 中期計画・通期業績予想

(単位:百万円・%)

	2015年3月期		2016年3月期		前年同期比
	金額	比率	金額	比率	増減額
売上高	23,229	100.0	24,434	100.0	+1,204
売上原価	17,796	76.6	18,731	76.7	+935
売上総利益	5,433	23.4	5,702	23.3	+269
販管費	3,835	16.5	3,783	15.5	△51
営業利益	1,598	6.9	1,918	7.9	+320
経常利益	1,546	6.7	1,838	7.5	+291
親会社株主に帰属する 当期純利益	982	4.2	1,114	4.6	+132
1株当たり利益(円)	66.6	—	76.7	—	+10.1

過去最高

inet サービス区分別販売実績・営業利益(連結)

(単位:百万円)

	2015年3月期		2016年3月期		増減額	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
					金額	金額
情報処理サービス	9,107	734	9,607	958	① +499	+224
(営業利益率)		8.1%		10.0%		
システム開発サービス	13,457	826	14,081	917	② +623	+90
(営業利益率)		6.1%		6.5%		
システム機器販売	664	37	746	42	+81	+5
(営業利益率)		5.6%		5.7%		
合計	23,229	1,598	24,434	1,918	+1,204	+320
(営業利益率)		6.9%		7.9%		

(主な要因)

- ①新規受注順調でデータセンターの稼働が向上し、増収・大幅増益
- ②金融業・流通業向けのシステム開発が増加し、増収・増益

(注)営業利益については当社独自の簡便法で作成しており、数値は参考値(目安)とさせていただきます。

(単位:百万円・%)

	2015年3月期末		2016年3月期末		前期末比
	金額	構成比	金額	構成比	増減額
流動資産	8,735	33.6	8,593	34.2	△141
固定資産	17,227	66.4	16,516	65.8	① △710
資産合計	25,962	100.0	25,110	100.0	△852
流動負債	6,323	24.4	5,734	22.8	△589
固定負債	7,491	28.9	7,582	30.2	90
負債合計	13,815	53.2	13,316	53.0	② △498
純資産	12,147	46.8	11,793	47.0	③ △353
負債・純資産合計	25,962	100.0	25,110	100.0	△852

(主な要因)

①有形・無形固定資産減275百万円、投資有価証券減237百万円、退職給付に係る資産減240百万円

②借入金の返済による減550百万円

③増加要因・・・利益剰余金の増647百万円

減少要因・・・自己株式の増加360百万円、有価証券差額金の減少119百万円

ISTソフトウェアの完全子会社化に伴う非支配株主分の減250百万円

inet キャッシュ・フロー計算書(連結)

(単位:百万円)

	2015年3月期	2016年3月期	前年同期比
	金額	金額	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,648	① 2,523	△125
投資活動によるキャッシュ・フロー	△622	△468	+154
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,675	② △1,892	△216
現金及び現金同等物の増減額	+350	+162	△187
現金及び現金同等物の期首残高	2,183	2,533	+350
現金及び現金同等物の期末残高	2,533	2,696	+162

(主な要因)

- ①増加要因・・・利益および減価償却による内部留保で3,162百万円獲得、売掛債権減699百万円
減少要因・・・たな卸資産増加456百万円、未払消費税減少419百万円、法人税等支払307百万円
- ②借入金の返済(減少)550百万円、自己株取得(子会社含む)601百万円
配当金支払い467百万円



1. はじめに(会社概要)

2. 2016年3月期業績概要

3. 当社Grpの事業方針・強み

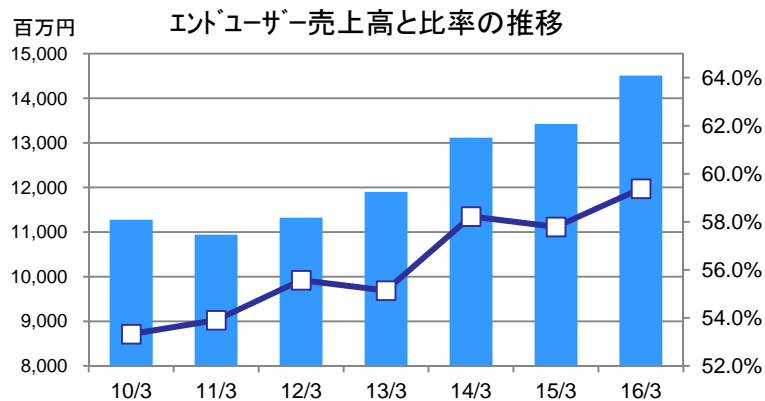
4. 業界環境・当社Grpの概況

5. 中期計画・通期業績予想

■ 事業方針

◆ エンドユーザー志向

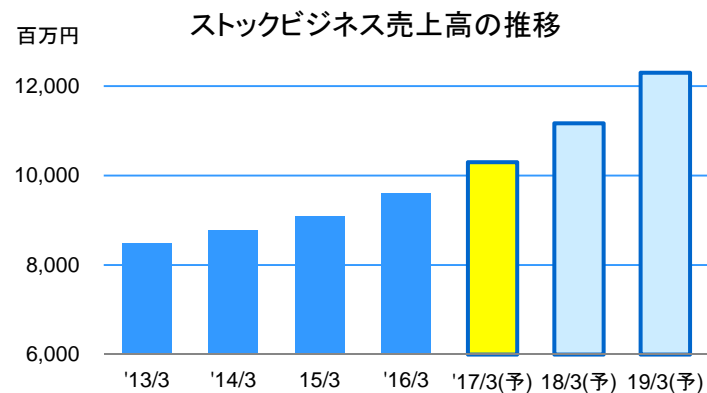
- ・お客様に選ばれ信頼関係を構築
- ・多面的な取引の実現



エンドユーザーとは
システム等を利用するユーザー企業と
直接契約のこと。

◆ スtockビジネスの拡大

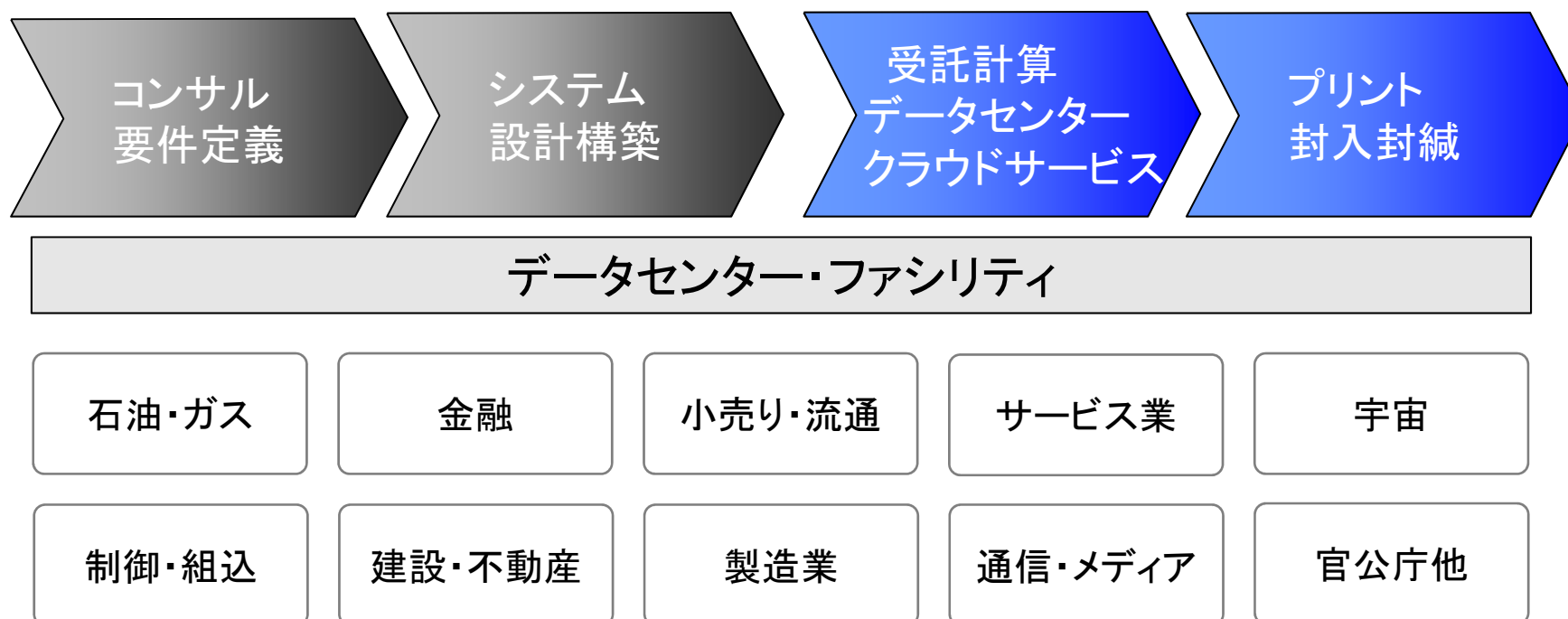
- ・継続的な売上／利益の確保
- ・一人当たり利益の増加



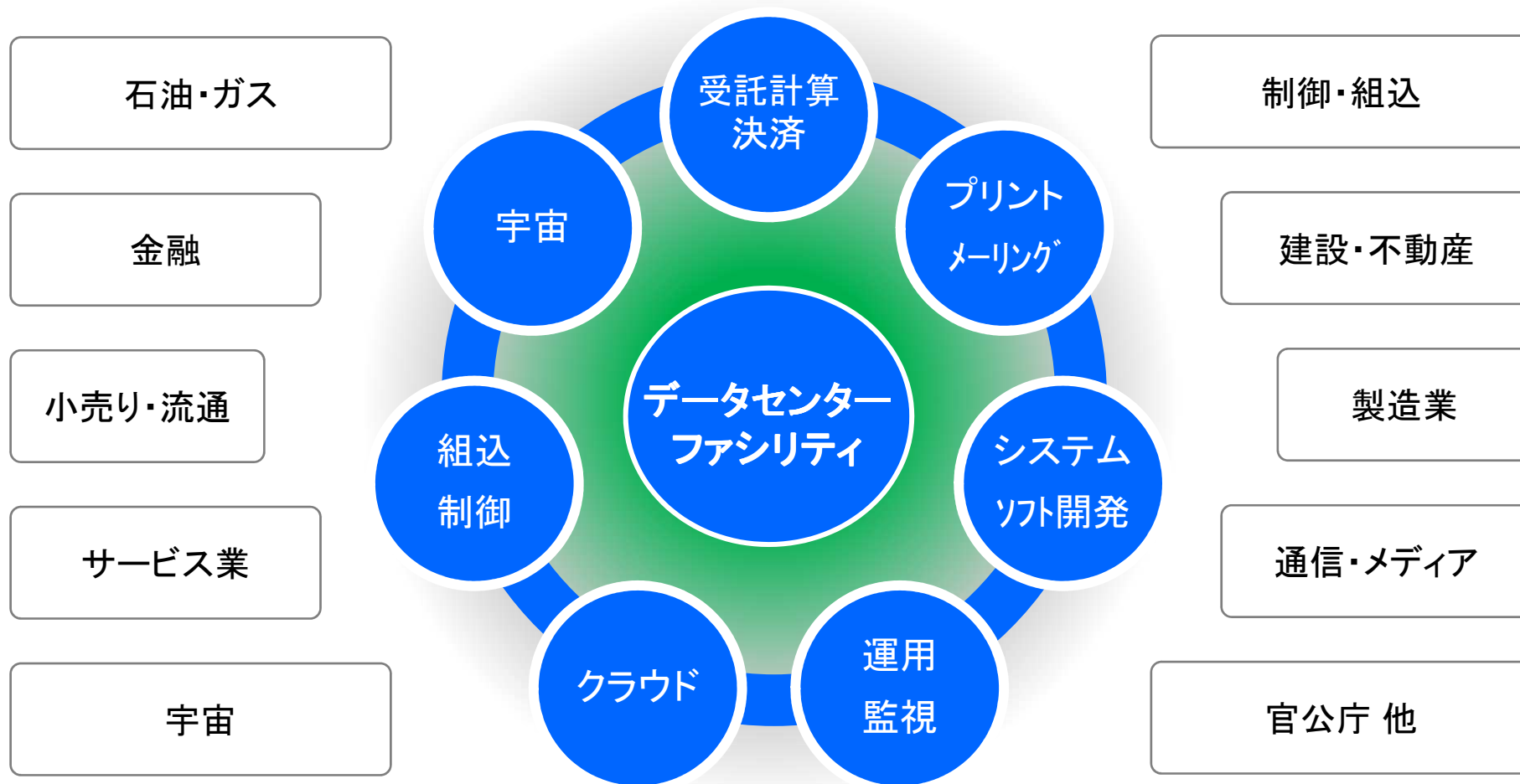
ストックビジネスとは
いわゆる継続契約型ビジネスのこと。
当社では情報処理サービスを指す。

■当社グループの強み

安全なデータセンターでシステム構築から運用、さらにはBPO業務まで
様々な業種・業態のお客様に最適なITサービスをワンストップで提供



様々なサービスをお客様のビジネスに合わせ連携
データセンターに巻き込み、ストックビジネスへ展開





1. はじめに(会社概要)

2. 2016年3月期業績概要

3. 当社Grpの事業方針・強み

4. 業界環境・当社Grpの概況

5. 中期計画・通期業績予想

■国内IT市場

- ITサービス市場
2020年に5兆8,727億円へ
年平均1.1%成長
- 金融業のIT投資は高水準で推移
金融業は既存システムに加え
攻めのIT投資増加
- 国内IoT市場は2020年に13.8兆円へ
年平均16.9%成長

15年の国内ITサービス市場



2/19 日本経済新聞より




金融機関のソフトウェア投資額	2015年度		2016年度	
	(計画)	修正率	(計画)	修正率
金融機関計	28.8	1.3	3.4	—
銀行業	28.1	4.6	5.9	—
信用金庫・系統金融機関等	25.1	-7.7	-6.4	—
金融商品取引業	32.0	6.2	-15.5	—
保険業	42.3	-4.1	10.2	—
貸金業等	8.0	-6.2	2.2	—
(参考) 全産業+金融機関	6.4	-1.6	2.0	—
うち 非製造業+金融機関	8.4	-1.3	3.0	—

(前年度比・%)

4/1発表 日銀短観より

■ITトレンド

⇒企業は「守り」と「攻め」のIT投資を両立
「守り」はコスト低減にクラウド利用拡大し、
一方でさらなる売上拡大、顧客サービス向上に向けた
「攻め」の戦略的IT投資を加速

石油元売 石油小売業		<ul style="list-style-type: none">・SS数減少傾向の中、新規SSを獲得しシェア拡大 ※売上高と営業利益⇒過去最高を更新・元売り統合の影響は追い風
製造業 制御・宇宙		<ul style="list-style-type: none">・円高進むもシステム投資堅調・医療分野に注力・危機管理強化を目的に情報収集衛星を10基体制へ・IoT案件対応
金融業		<ul style="list-style-type: none">・クレジット／カードローン向けシステム開発好調・活動基準原価計算(ABC)システム引合い好調
小売流通業、他		<ul style="list-style-type: none">・大型案件完了で一服・消費税／マイナンバー対応
データセンター クラウド サービス		<ul style="list-style-type: none">・16年度は、前年比14%の売上増を見込む・クラウドサービス基盤を刷新(SDDC)・個人情報保護、DC＋プリント／メーリングで差別化推進・IaaSやSaaSの海外展開



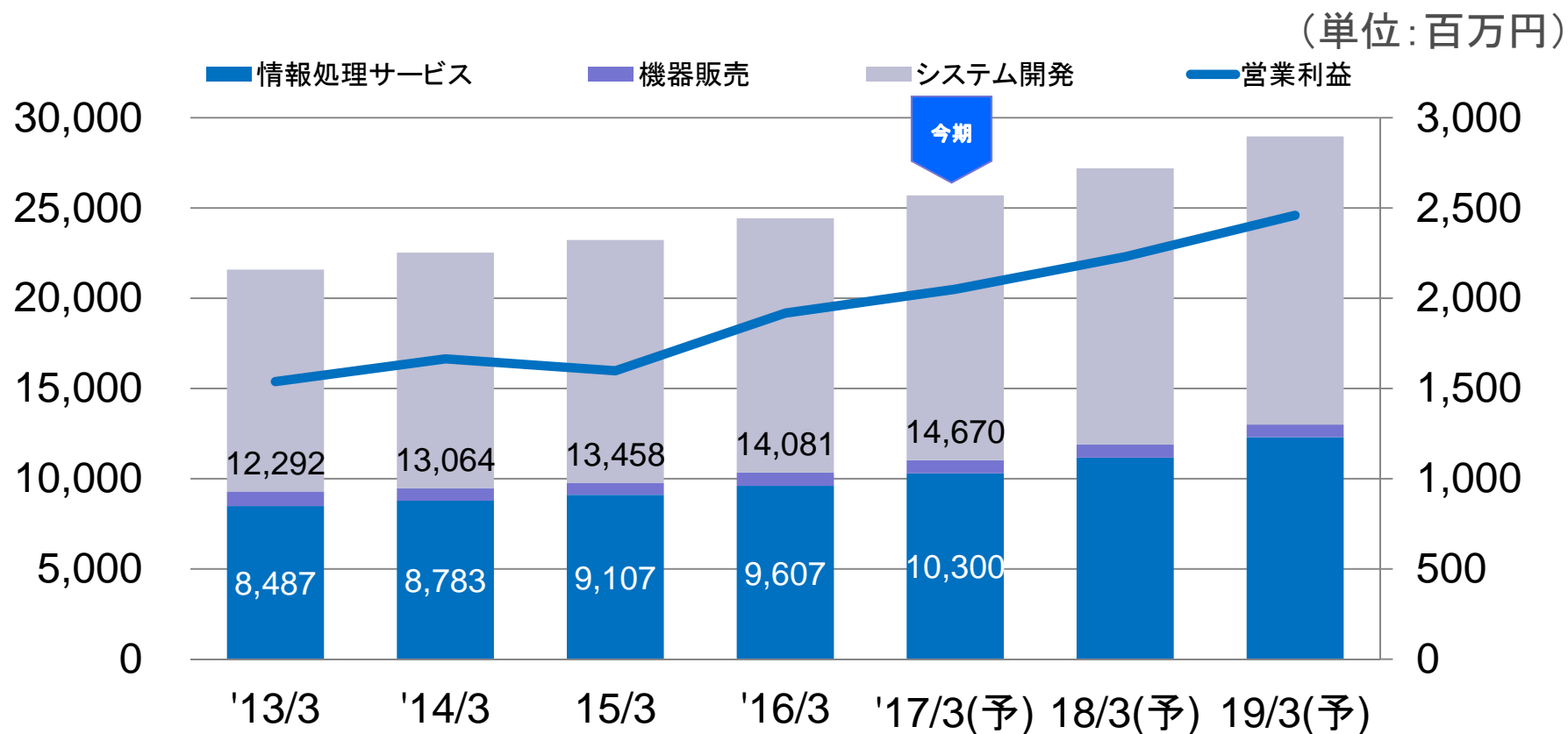
1. はじめに(会社概要)

2. 2016年3月期業績概要

3. 当社Grpの事業方針・強み

4. 業界環境・当社Grpの概況

5. 中期計画・通期業績予想

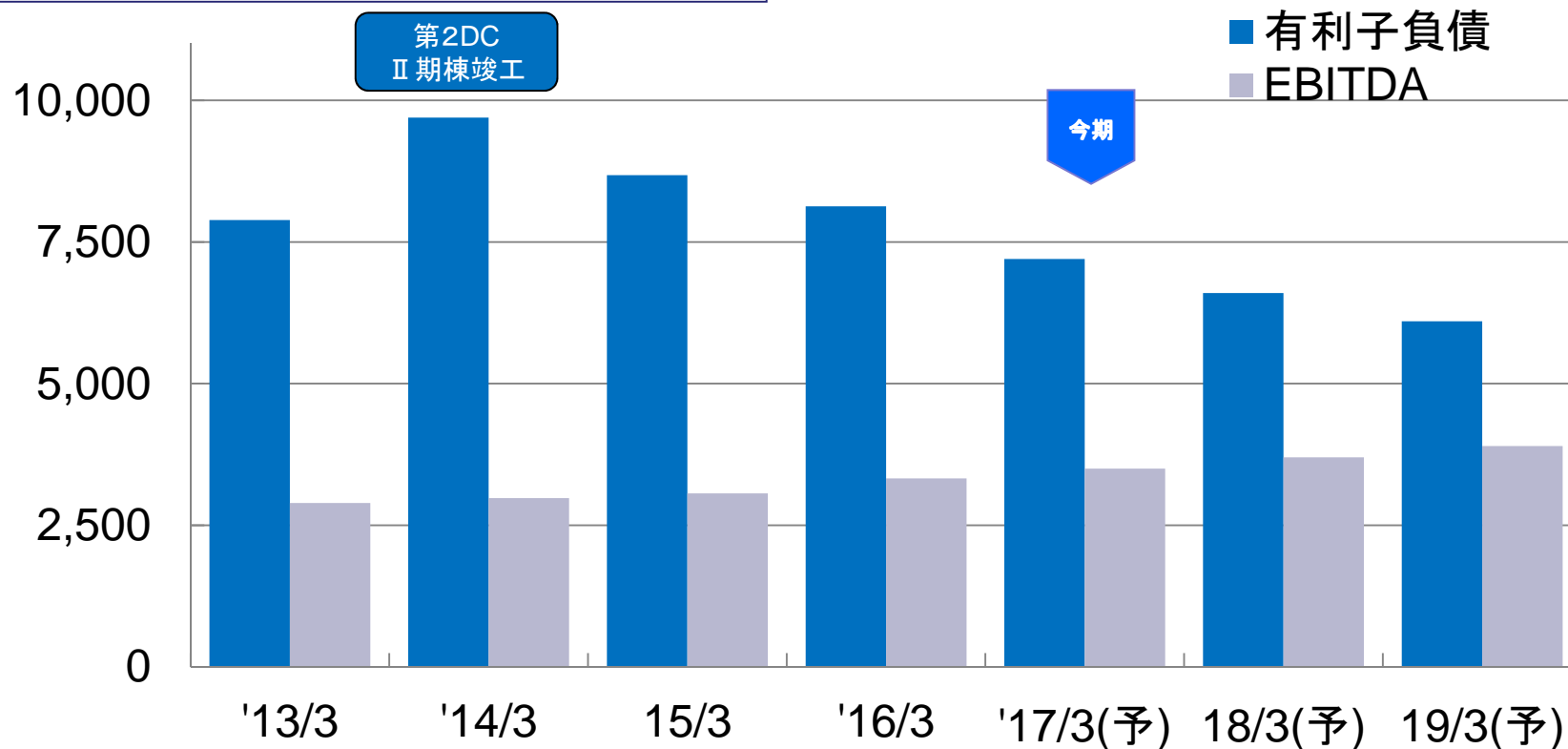


売上高	21,587	22,528	23,229	24,434	25,700		
営業利益	1,538	1,664	1,598	1,918	2,050		
ROE	10.7%	9.5%	8.8%	9.4%			

過去最高

EBITDA=経常利益+支払利息+減価償却費他非資金項目

(単位:百万円)



有利子負債	7,888	9,695	8,681	8,130			
EBITDA	2,894	2,979	3,064	3,327			
インタレスト・カバレッジ・レシオ	18.5	10.2	23.2	24.4			
債務償還年数(年)	4.2	8.3	3.3	3.2			

- ①システム開発サービスを拡大（案件潤沢）
- ②IoT、ビッグデータの基盤となる、
データセンタービジネス／クラウドサービスに
注力し収益拡大（稼働率上昇・効率化）
- ③SSビジネスの更なるシェアUP
（シェアリーダーシップ）
- ④地方計算センターとの連携（資本・業務）
- ⑤M & Aによる新技術獲得と規模の拡大

（単位：百万円・％）

	2016年3月期		2017年3月期		前期比
	金額	比率	金額	比率	増減額
売上高	24,434	100.0	25,700	100.0	+1,266
売上原価	18,731	76.7	19,500	75.9	+769
売上総利益	5,702	23.3	6,200	24.1	+498
販管費	3,783	15.5	4,150	16.1	+367
営業利益	1,918	7.9	2,050	8.0	+132
経常利益	1,838	7.5	1,950	7.6	+112
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,114	4.6	1,280	5.0	+166
1株当たり利益(円)	76.7	—	88.6	—	+11.9

過去最高

inet サービス区分別 売上・営業利益予想(連結)

(単位:百万円)

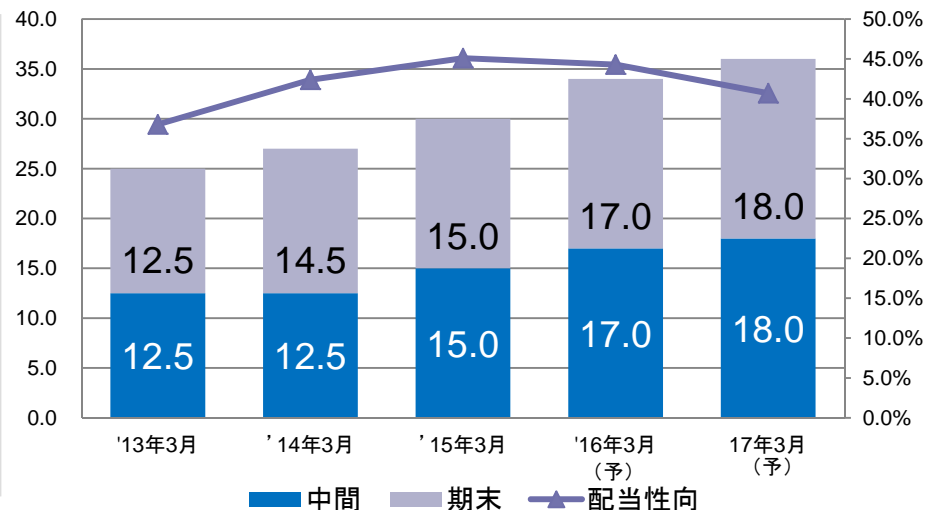
	2016年3月期		2017年3月期		増減額	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
情報処理サービス	9,607	958	10,300	1,007	① +693	③ +48
(営業利益率)	—	10.0%	—	9.8%		
システム開発サービス	14,081	917	14,670	1,008	② +589	+90
(営業利益率)	—	6.5%	—	6.9%		
システム機器販売	746	42	730	35	△16	△7
(営業利益率)	—	5.7%	—	4.8%		
合計	24,434	1,918	25,700	2,050	+1,266	+132
(営業利益率)	—	7.9%	—	8.0%		

- ① データセンタービジネスやメーリングサービスが好調で増収
- ② システム需要は2016年も継続、増収増益
- ③ 先行投資・ライセンス償却に対応

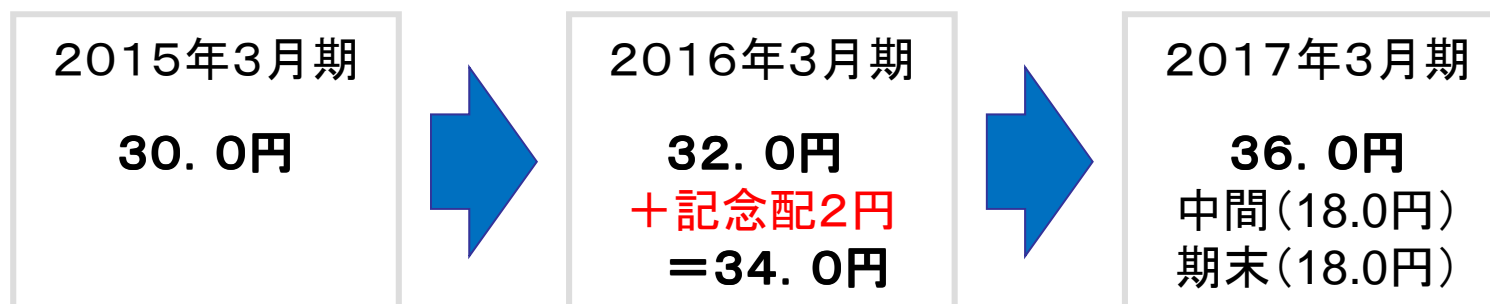
(注) 営業利益については当社独自の簡便法で作成しており、数値は参考値(目安)とさせていただきます。

《配当方針》

将来の資金需要に備え
内部留保しつつ
安定配当を継続実施



1株当たり年間配当金の計画 (5期連続増配予定)



本日はご多用中にもかかわらず
説明会にお越しいただき誠に
ありがとうございました。



当資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる場合がありますことを、予めご承知頂きますようお願い申し上げます。

当資料に掲載されているサービスおよび商品などは、株式会社アイネットあるいは各社の登録商標または商標です。

お問い合わせは、下記連絡先までお願い致します。

企画部 伊藤、杉岡

TEL 045-682-0808

E-Mail contact_ir@inet.co.jp

URL <http://www.inet.co.jp>